

ひともトキも



- 04 トキの絵本、できました
- 11 董寨自然保護区トキ順化訓練開始
- 02 寧陝小学校「JICAトキカップ」開催
- 08 羅山県董橋村における有機茶栽培モデル事業
- 12 洋県有機産業研修会の開催



人とトキ

河南省董寨自然保護区に完成した順化ケージ



人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト



JICA特別賞

譚子軒さん

パンダ、キンシコウ、トキ、ターキンの秦嶺四宝がそれぞれ石に描かれた独創的な作品

寧陝小学校「JICAトキカップ」開催

多くの力作が集まったコンクールは
トキや環境への意識向上にも一役

2012年11月に、寧陝県寧陝小学校で「JICAトキカップ」を開催しました。このコンクールには全学年の生徒が参加し、書・絵画・工作など869点もの作品が出品されました。コンクールではトキプロジェクトにより選出されたJICA特別賞3点をはじめ、特等賞18点、一等賞21点、二等賞35点、三等賞49点、さらに優秀クラス賞に4クラスが選出されました。

表彰式では、田紅校長、トキ野生復帰放鳥基地の李夏主任、およびトキプロジェクトから、受賞した生徒に賞状と賞品を手渡しました。その後、入賞した生徒は小池真実さんと庄苗苗さんに

よるトキ保護の授業に参加しました。授業では、プロジェクト制作による絵本「トキをみつけたよ」を紹介しながら、トキやトキ保護について紹介しました。生徒たちは真剣な表情で授業に臨み、トキ保護や環境の保全に高い意欲をみせていました。

寧陝県は教育を重視しており、県唯一の完全小学校（6学年がある小学校）である寧陝小学校は省級モデル学校として指定されています。通常の授業だけでなく、生徒たちが充実した学校生活を送ることができるよう、さまざまな課外活動を行っており、今回の「JICAトキカップ」はその一つです。担当した先

生からは、今後もプロジェクトと協力しながらこのような活動を続け、活動を通してトキ保護や環境保護の理念を広め、生徒のトキ保護に対する意識を高めたい、という要望が寄せられました。

寧陝県はプロジェクトの実施サイトの一つであり、寧陝小学校は環境教育を実践していくのにふさわしい場だと考えられます。子ども達を通じて大人にも効果が波及することで地域住民全体のトキ保護意識を高め、人とトキの共存を実現していくのが目標です。なお、今回のコンクールの様子は寧陝県教育局のホームページ上でも掲載されました。





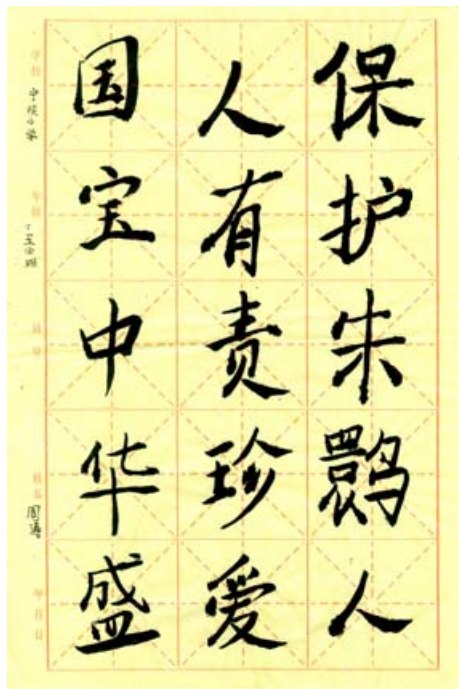
JICA 特別賞

席文秀さん

真っ赤な太陽と、翼を大きく広げたトキの姿がとても印象的な絵



上: 作品を審査している様子 / 中: 入賞した生徒たち / 下: 表彰式の後に行われたトキの授業



JICA 特別賞

周涛さん

自分達の手でトキを守っていきたい、という熱意が感じられる書



刘思雨さん



譚子軒さん



張英さん



呉婷さん



蘇江萍さん

トキの絵本、できました

環境教育教材としてトキの絵本を作製

環境教育のモデル教材となる、トキをテーマにした絵本を制作しました。この度完成したのは、低学年向け「トキをみつけたよ」と高学年向けの「トキのカー太」の2種類です。

絵本制作のきっかけは、森チーフが日本から持ち込んだ1冊の本。それはトキをテーマにして子ども向けにつくられた絵本「トキがとぶそら」（夏目義一

さく 金子良則 監修、「月刊かがくのとも」498号、福音館書店、2010年）でした。当時、現地で行われた基礎調査の結果から、適切な環境教材のニーズがあることが判明していました。絵本は子ども達が読むだけでなく、親が子どもに読み聞かせることで、読む親にも子どもにもトキやトキの生息する環境に親しみを持ってもらえることから、

絵本の作成にプロジェクトチームとしてチャレンジすることになりました。

絵本の制作にあたり、要となる絵についてはこれまでもプロジェクトにて広報資料のデザインなどを担当してきた小池さんが中心になりました。国際協力絵本作家になりたいという夢を持つ小池さんは、この1年間絵本についてチームの中でもっとも考え続けてきた



トキのヒナ「カー太」の成長とともにストーリーが展開される、小学校高学年向けの「トキのカー太」





小学校低学年向けの「トキをみつけたよ」、中国語版タイトルは「看！朱鷺」。トキの特徴に触れながら、親しみを持てる絵本。

といえるでしょう。

また、制作の過程では日中双方のトキに関心のある多くの方々から、魅力的な絵本になるための多くのアドバイスをいただきました。特に、陝西省林業庁の常秀雲副秘書長、漢中朱鷺国家級自然保護区の丁局長、洋県の小学校の先生方からも貴重なアドバイスをいただきながら、絵の下書きや原稿を前に議

論を重ねてきました。もちろん、環境教育分野担当の平野専門家によるアイデアやストーリーの構想、鳥類保護兼普及分野担当の中島専門家からはトキの生態学的な観点からのアドバイスなど各専門家、子どもにも分かりやすい言葉選びに苦心した庄苗苗さんや劉玉卓さんなどのスタッフも多くの時間を割きました。そして米田専門家からは、

中国の子ども達にとっても日本の子ども達にとっても面白い本になるから頑張れと応援を頂きました。

今後、プロジェクトではこの絵本を活用した環境教育や普及啓発活動を行っていくほか、引き続き教材の改善や開発に取り組んでいく予定です。





トキの絵本がやってきた!



高寨小学校で小池さんによる読み聞かせの授業



董橋小学校で校長先生に絵本を贈呈

トキの野生復帰に向けて準備が進む河南省董寨では、順化ケージでの訓練や放鳥準備だけでなく、普及啓発や環境教育活動を通じて、住民のトキへの関心、認識を高めていく取り組みを行っています。この度完成した絵本「トキをみつけたよ」と「トキのカー太」を使い、董寨自然保護区にある2つの小学校でモデル授業を行いました。

それぞれの小学校では、一年生のクラスでまずは低学年向けの「トキをみつけたよ」の読みきかせをしました。読み終わると、生徒達から「還想看!」(もっと見たいよ!)と声上がり、少し難しいかなと思いながらも、続けて高学年向けの「トキのカー太」も読み聞かせてみました。すると、生徒達の表情

は真剣な顔つきに変わり、物語に入り込んでいるのがわかりました。ラストシーンでは、「ああ、あのカー太が大きくなってお父さんになったんだ!」と声を出す生徒もいて、一年生でもストーリーやその背景を理解していると感じました。絵本は各学校に20冊ずつ、平野専門家からそれぞれの校長先生に贈呈し、図書室へ置かれることになりました。図書室には子ども向けの本があまり見当たらなかったため、これからは子ども達が絵本を手にとって読んでくれることを願いながら、学校を後にしました。

今後、保護区と協力しながら絵本を活用して地域への波及を進めるとともに、洋県や寧陝県の小学校でも取り組む予定です。



連携特集

中国国内、国外からも多くの方々にプロジェクトの活動や広報にご協力いただいています

トキの絵本

トキの絵本の日本語版は、中国へ幼児教育担当の海外青年協力隊として派遣された経験を持つ小野愛子さんのご協力により、昭和女子大学付属幼稚園にて子ども達への読み聞かせに活用していただきました。

また、陝西省師範大学でも「トキのカー太」を用いた授業を行いました。



読み聞かせをする小野先生と真剣に聞き入る子ども達

四季報「ひとつもトキも」

プロジェクト四季報「ひとつもトキも」は日本大使館、北京日本文化センター(日本国際交流基金会)、新潟市北京事務所のご協力のもと、日本語版や中国語版をそれぞれ配布していただいています。

西北大学、西安交通大学、および陝西省師範大学など西安で日本語を学ぶ学生や中心に配布しているほか、JICA中華人民共和国事務所勤務していた魏然さんのご協力により、北京外国語大学の日本学部の学生にも配布されています。



陝西省師範大学で「トキのカー太」の読み聞かせの授業

西安の小学校でトキの授業

西安の小学生もトキに熱中

西安市内の小学校で、ホームルームの時間を利用してトキの授業を行いました。最初はトキをあまり知らなかった子ども達も、紙芝居やデコイの登場で次第に関心を持ち、それぞれ折り紙に挑戦。最後は、自分達で折った折り紙を手に嬉しそうに見つめていました。

授業の感想文にはトキ保護に対する想いや折り紙のおもしろさなどが書かれており、子ども達にとっては忘れられないトキとの思い出になったようです。



授業の感想文を
いただきました

トキが好き！

範馨予

今日の午後、私たちのクラスでは特別な授業が行われました。何人かのお兄さんとお姉さんが来て、トキについての知識を教えてくださいました。トキは赤い顔をしていて、くちばしが長く、頭には白い髪の毛があります。体は白くて足が細く、とてもきれいに見えるのです。トキはとても珍しい鳥で、洋県というところにいるとお姉さんたちが言いました。そこにはトキ自然保護区があり、トキが自由に生活しているようです。お兄さんとお姉さんからはノートや筆箱、鉛筆、下敷きなどのプレゼントもあり、みんなはとても喜びました。もしチャンスがあれば、絶対トキ保護区へトキを見にいって、トキと友達になりたいです。お兄さんやお姉さんを見習って、トキ保護と環境保護の先頭に立ちたいと思います。

美しいトキ

劉燁燁

今日のホームルームにはお兄さん1人とお姉さん3人が来て、トキという鳥について詳しく教えてくださいました。そして、文房具やノート、鳥の下敷きなど、とてもきれいなプレゼントもありました。

トキは一種の珍しい鳥です。素直な性格で、上品で、東方の宝石と褒められています。湿地や沢、水田などが好きで、バッタやカエル、魚、タニシやドジョウなどを食べています。春にはトキの羽の色は灰色っぽく、暑い時には灰色の羽が涼しく見えます。秋にはトキの羽の色は赤っぽく、だんだん寒くなってく時には暖かく見えます。

今日はトキについての知識を勉強しました。動物を守り、環境を守る人になりたいです。

有意義なホームルーム

劉環璇

今日のホームルームの時間に、お兄さんとお姉さんたちが大きな箱を持ってクラスに入ってきました。何でしょう。ホームルームにお兄さんとお姉さんが参加することを私は聞いていましたが、箱のことは知りませんでした。思ったとおり、お姉さんが箱の中身は何でしょうとみんなに聞きました。クラスメートがトラやヘビ、鳥など、いろんな面白い返事をしました。答えは、まるで本物のように見えるトキのデコイでした。トキはガチョウのようでもあり、脚が細くて長くフラミンゴにも少し似ています。トキが歩くときは、バレエを踊っているかのようです。トキが飛ぶときは、オレンジ色の羽が見えます。その羽は色が変わることもあります。

お姉さんが2枚の絵をみんなに見せ、どちらがトキでしょうかと聞きました。「違います」「同じです」と声もいろいろ。答えは両方ともトキでした。しかし、なぜ1つは黒っぽくて、もう片方は白にオレンジ色なのでしょう。クラスメートの1人が「空が暗くなったから」と答えて、みんなが笑いました。「写真を撮るとき、影があったからだ」と答えた友達もいました。でも、空を飛んでいるトキだから、影はないだろうとお姉さんが言いました。ほかには「ペンキを塗られた」といった答えもありました。実は、トキが黒くなったのは、子どもと関係があります。その色は見つけられにくく、安全です。トキはカメレオンのようだとは思いませんでした。このように服を変えるのが好きなトキは、鳥の世界でもきれいな鳥なのでしょう。

私はきれいなトキが好きです。お父さんが、洋県まで飛んでいるトキの姿を見に行こうと言ってくださいました。そのときは、私は絶対トキの写真を撮りたいと思います。

お姉さんが言いました。環境をきちんと守れば、トキも自由に生活できるのです。

董寨自然保護区 霊鼎峰合作社における有機茶栽培モデル事業

董寨自然保護区内で実施中の有機茶栽培支援モデル事業を紹介します

董寨自然保護区内にあるモデル有機茶園

今回は河南省のプロジェクトサイト、董寨自然保護区内で実施中の有機茶栽培支援モデル事業を紹介します。

鳥類に恵まれた董寨自然保護区

董寨自然保護区（以下保護区）は河南省の最南端、湖北省との省界に位置し、淮河水系の最上流部に当たっています。地形は、最高部でも840mと低山や丘陵が主体で、谷あいや周辺の平地は水田と集落が分布しており、二次的自然が主体ですが、中国の北方、南方の移行帯に位置するため動植物の多様性が高く、特に鳥類は国家1級保護動物のオナガキジを始め310種以上が生息しており、2001年に鳥類保護を目的とする国家級自然保護区とされました。

トキ野生復帰に向けて

ここに2007年、日本から返還された個体を含む20羽のトキが導入され、飼育繁殖が開始されました。現在（2012年末）、飼育数は100羽を超え2013年秋には放鳥が予定されています。農薬、化学肥料の抑制、森林保護などトキが安心して生息できる環境づくりが必要ですが、これは農民の協力なしには不可能です。そのためには、生態環境の保全と両立可能な収入向上の道を示し、農民に環境保護のメリットを納得

してもらう必要があります。

茶業が盛んな董寨

保護区がある河南省南部信陽地区は、茶栽培が盛んで、“信陽毛尖”ブランドは高級茶として全国に知られています。周辺の羅山県霊山鎮、朱堂鎮等では、山腹や丘陵の各所に茶園が見られ、農家収入の60%以上は茶業収入が占めています。

しかし、周辺の茶づくりは、これまで個別農家の零細な茶園が分散し、半野生の粗放な栽培で品質は安定せず、低収益に留まっていました。こうした中で霊山鎮の董橋村では、茶業農家を組織した合作社（霊鼎峰茶業專業合作社）が2007年に設立され、規模拡大、栽培方法の標準化、栽培から加工、販売までの一元管理を目指して、取り組んできています。

モデル事業の立ち上げ

同合作社は自然保護区内という立地環境に着目し、安全、健康な有機茶をブランドづくりの基本戦略とし、無農薬、無化学肥料による有機茶栽培に取り組んでおり、トキとの共存の良いモデルになります。同合作社には周辺農家230戸が参加していますが、これは地元董橋村全農家の5~6割、茶業農家

の8~9割に相当し、同合作社での取り組みは村全体への波及が期待されます。

また、地元董橋村では政府の新農村建設の一環として、メタンガス発生装置が普及しているのですが、この処理槽の汚泥を有機肥料として循環利用するアイデアも浮かんできました。このようなことから、2012年3月、プロジェクト、保護区、地元董橋村及び合作社で協議書を取り交わし、同合作社を対象に有機茶栽培モデル事業に取り組むこととしました。

無農薬・無化学肥料栽培の取り組み

合作社は、設立以来、粗放栽培の転換に取り組んできましたが、有機茶に要求される無農薬、無化学肥料栽培は難度が高く、病虫害防除など一層の技術力の強化が必要とされていました。また、メタンガス装置については、管理不足で遊休化している農家が多く、汚泥の循環利用には、農家の管理を支援し定期的に汚泥を搬出するための設備や体制の整備が求められていました。

このような課題を念頭に、2012年3月から、「無農薬・無化学肥料のお茶づくり+メタンガス有機汚泥の循環利用」をテーマに、モデル事業の取り組みを始めました。

具体的な活動は、①技術研修、②資



董寨自然保護区内では牛を使って水田を耕す農民の姿もみられる



メタンガス汚泥汲み取りの様子とバキュームカー、有機茶園

機材の提供の二つです。①については、土づくり、除草管理、病虫害防除、剪定、茶葉加工等季節に応じたテーマの研修会を毎月1～3回、継続的に開催しました(計18回)。研修会は基本的に、茶園や加工場等、現場での講義や実習とし、毎回20人前後の農民が参加しました。講師は地元羅山県茶業弁公室の専門家や信陽市の農業専門学校の実験室の研究者に依頼しました。

また②としては、太陽電池式の誘引殺虫灯、性フェロモンによる害虫誘引粘着シート、汚泥組み取りバキュームカー、汚泥溜枳(建設資材)、エンジン剪定機等を提供しました。

1年間の取組みの成果

毎回、その季節にやるべき作業に焦点を当てた研修内容とすることで、農

民の研修への積極性が高まり、これを繰り返すことで栽培技術の体得が容易になったと思われます。また、地元の専門家に継続的に来てもらうことで、研修中だけでなく、随時気軽にアドバイスをしてもらえ関係もできました。誘引灯や誘引シート、メタンガス汚泥利用等の効果として、合作社からは、昨年夏は高温少雨で周辺茶園で虫害が目立った中で、モデル茶園では無農薬でも虫害が顕著に抑制され、また、茶樹の生育が良好になり、茶葉の品質、産量も向上し、1ムー(約6.7アール)当たり5kg、2000元の増収となったと報告がありました。

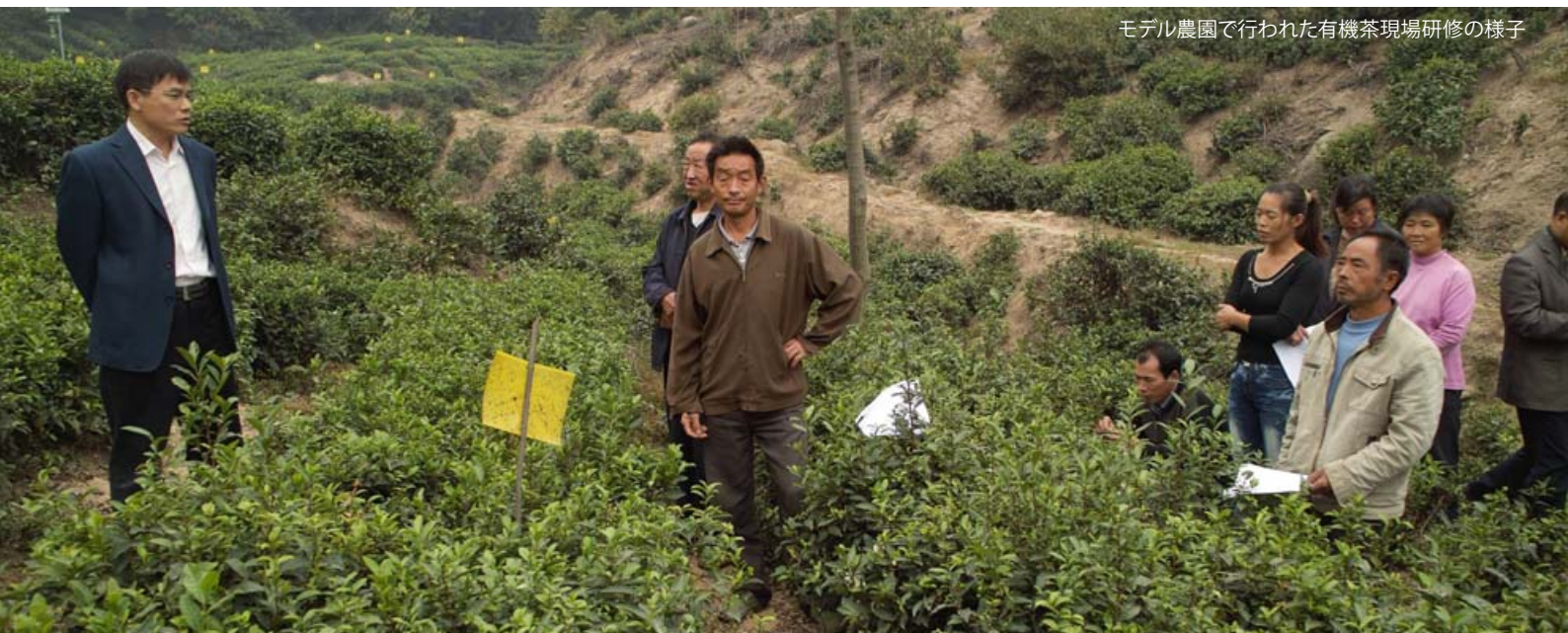
本合作社の取組みは、周辺からも注目されており、合作社は昨年、河南省農業科学院と羅山県による農業科学技術支援プロジェクトのモデル基地、また

世銀GEFの淮河源流生物多様性持続可能な利用プロジェクトの対象地区にも選定されました。

今後の課題と方向

董寨自然保護区周辺では、他にも多くの茶業合作社や企業が存在し、羅山県全体では茶業合作社の連合組織も作られています。今後、合作社への技術支援を継続するとともに、モニタリングを通じて栽培管理の経験を取りまとめ、周辺に波及させていきたいと考えています。

また、ブランド力の強化という側面から、トキイメージの活用やバードウォッチングとの連携などの取組みも試みていきたいと考えています。



モデル農園で行われた有機茶現場研修の様子



洋県トキ展示館オープン

トキと洋県の自然を学ぶ展示館

2012年10月1日に洋県トキ展示館がオープンしました。洋県のトキ救護飼養センターに併設されたこの展示館には、トキをはじめ秦嶺山脈に生息する野鳥や野生動物のはく製、美しいトキの様子をとらえた写真や保護区が取り組んできたトキ保護の流れを紹介するパネルなどが展示され、トキが生息する洋県の自然やトキ保護の歴史などを学ぶことができます。

3部で構成されている展示の第2部

には、国際協力に関するテーマで構成されたコーナーもあります。もちろん、JICA「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」の活動を紹介するパネルも展示されています。また、プロジェクトのパンフレットや広報ツールのトキを描いている小池さんや曹さんの作品も、中国の一流作家と並んで紹介されています。

洋県へお越しの際は、ぜひトキ展示館にも足をお運びください。



トキや洋県の自然を紹介するコーナー



四季ごとのトキの美しい姿を紹介するパネル



トキを題材にした書や絵画の中には小池さんや曹さんの作品も

洋県ではトキの個体数の増加とともに生息地域の拡大に伴い、トキ生息地の地域住民の理解や協力を得ることがますます重要になってきています。まずトキのことを正しく知ってもらい、トキ保護の重要性や人との共生について理解してもらう必要があります。プロジェクトでは、朱鷺保護区管理局と協力しながら地域での保護宣伝活動を開催しています。

2012年11月には洋県周家坎村で「人とトキの共生」宣伝活動を行いました。会場となった周家坎小学校の全校生徒約70人のほか、村民約80人も活動に参加。保護区を代表して李佳氏が挨拶した後、陝西省で人気ある伝統劇「秦腔」を愛好者が演じました。興味津津で観ていた大人に対して、少し難しそうだった子ども達も、続けて行ったトキクイズでは大いに腕前を発揮。先生が司会者となって一問一答で行い、正解した村民にはエコバックやマグカップ、生徒にはノートや鉛筆などの文房具と、それぞれプロジェクト制作のグッズを提供しました。子ども達の手も次々と上がり、用意した25問はあっとい→

「人とトキの共生」普及啓発活動

洋県の2つの村で行われた活動の様子





董寨自然保護区で
トキの順化訓練開始
董寨でのトキ放鳥に向けて



四季報第6号で着工をお伝えした董寨自然保護区のトキ順化ケージが完成しました。日本大使館による草の根無償資金協力とプロジェクトが連携して支援し、整備された直径30mの円形のケージには、マツや落葉広葉樹などの樹木が植栽されているほか、止まり木も設置されています。また、川から水を引き込み、水路や池で餌を探ることができるようになっています。

3月15日に全国鳥類バンディングセンターの劉研究員、陝西省林業庁の常副秘書長、保護区職員、および中島専門家が参加し順化ケージへトキを移動する作業を行いました。訓練を開始したのは2008年から2011年生まれのオスメス各17羽の計34羽。中国から日本

に供与されたトキから生まれ、2007年11月に日本から返還されたトキの子や孫の世代にあたります。これらの個体にはプロジェクト供与の機材によりバンディングセンターが作成し、保護区に配布した足環=ナンバー入りカラーリングを装着するとともに、このうちのオス6羽にはプロジェクト供与のGPS送信器をそれぞれ装着しました。

今年秋頃に予定されている放鳥に向け、飛翔能力、自ら餌を探す採餌能力、群れでねぐらを取り集団で生活する能力などを高める順化訓練を行っていきます。今後、董寨自然保護区と協力しながら、訓練状況を観察したり放鳥に向けた普及啓発活動を行っていく予定です。



訓練個体にGPS送信器を取り付ける作業



足環を装着しケージ内に放されたトキ

トキのクイズで盛り上がりグッツも大人気

う間に終わりました。この村では今回が初めての活動でしたが、生徒や村民もトキの生態や生息環境、有機農業などについても考えていた以上に知られており、周志剛村長や小学校も非常に協力的でした。

続いて12月には、洋県蒙渡村でも同様の活動を行いました。保護区から路晋氏が出席、村からは楊新文司書をはじめ約30人の村民が参加し、保護区作成のトキ保護のビデオを上映した後は、約70問のトキクイズです。正解者にはプロジェクト作成のエコバッグやカレンダーを提供。質問のたびに次々と手が上がり、大盛況のうちに終わりました。

今回の活動では、クイズや映像など、関心が高く伝わりやすい方法を取ることで、地域住民の熱心さも伺えました。トキとの共生に対する意識を高めるだけでなく、プロジェクトの広報としての効果も期待できます。今後も、トキの生息地となっている地域で普及啓発活動を行う予定です。



洋県有機産業研修会の開催

発展が期待される有機産業に多くの関係者が注目

有機産業立県を目指す洋県

洋県でトキが再発見された1981年以来、県政府はトキ保護のため、農業や化学肥料の施用の制限、環境汚染企業の移転、退耕還林による森林の回復等の保護政策を進めてきました。現在、洋県の野生トキは約1000羽まで増え、保護事業は大きな成果をあげています。一方で県の経済発展は少なからぬ制約を受けてきたのですが、洋県政府は発想を逆転しトキ保護で形成された良好な生態環境を有機産業の資源としてとらえ、有機産業の振興を県の発展戦略として位置付け、2010年以来、企業や合作社の有機認証取得の支援、有機関連企業開発区整備等の取組みを進めてきました。すでに55品目が国の認証を取得しており、昨年、洋県は全国10か所の有機認証モデル県の一つに選定されました。県政府は県産有機の販売にはトキブランドを使用し、トキと共存する有機農業県をアピールしています。

プロジェクトではこれまで草バ村の有機梨栽培を支援してきましたが、今回、幅広く洋県有機産業を応援する試みと

して、有機産業研修会を開催することとしました。ねらいは、企業や合作社等の関係者に広域的な視点から有機市場の現状や特徴、関連産業の動き等を紹介し、今後の経営のヒントを掴んでもらうことです。

研修会の概要

研修会は11月27日に洋県で開催、洋県政府曹志安副県長、朱鷺保護区管理局丁海華局長を始め、県内の有機企業や合作社、県、村等の関係者、農民など約80人、また、運営指導調査で来訪中の明治大学池上教授、小千谷農協の堀井修氏も参加しました。

研修会の冒頭、曹副県長、丁局長がそれぞれ「トキ保護と有機産業は互いの利益、共に発展できる」、「近年のトキ保護の進展は有機産業の効果、さらに発展させたい」と挨拶、続いて午前午後、合せて6件の報告が行われました。

午前のプログラムでは、まず、洋県有機弁公室肖副主任が「洋県有機産業の現状と方向性」と題して洋県政府の有機産業の取組み経緯と現在の発展状況

を紹介、今後の方向性として、企業化モデル及び企業・農家の合作モデルの併用、有機産業と生態観光の結合、食品加工残渣リサイクルなどによる有機産業循環の実現等を掲げました。

続いて、中国社会科学院農村発展研究所の曹斌助理研究員が「有機食品市場の現状及び展望」について報告。曹氏はまず全国的な有機産業の発展状況、生産及び市場の現状をレビューするとともに、現状では有機認証面積は全耕地面積の3%以下だが、今後継続的拡大が期待される、有機産業を積極的に支援しているのは主に地方政府、有機生産の主な担い手は現状では農業企業だが、今後は合作社の役割が重視されるという見方を示しました。

続いて洋県の有機産業の現状を昨年1月の企業アンケートの結果から分析、現状では企業の多くが導入段階にあり、資金確保と市場開拓が主な課題になっていると指摘、合作社の発展、監督強化、連合販売組織の設立などを提言しました。

三番目の北京欧閣有機農庄社の李小



研修会の様子



洋県政府曹副県長のあいさつ



雪副総経理は、「有機食品のマーケティング戦略」。商品を実際に取り扱う立場から有機食品のマーケティングで考慮すべき点を紹介しました。例えば、主な購買層は家庭総収入が5千元以上、年齢層は30～45歳及び60歳以上の二つのグループだが、最近ギフトで購入する男性主体の25～35歳のグループも目立ってきていること、販売ルートはスーパー、贈答品、宅配の三種で、それぞれの特性に合わせた販売手法が必要なこと等です。

李副総経理は、洋県への提言として、多様な産品を共通ブランドの下で統一的に販売するプラットフォームの創出やブランドとしてのトキの活用の重要性を強調し、併せて信頼性を担保するブランド管理の重要性を指摘しました。

午後の部はまず、草バ村の有機梨の栽培を指導している漢中植物研究所の高文所長による「黄金梨の収穫及び保存技術」に関する講義が行われました。黄金梨は収穫適期が短く、市場価値を高めるためには、適期に適切な方法で収穫し、保存、包装、出荷の各段階で

適切な方法で品質を保持することが重要です。

続いて、山東省畜産技術協会の田知明常務理事から、「有機肥料の高効率生産技術」として日本と中国における畜産廃棄物の規制や処理技術の現状、畜産廃棄物による堆肥製造のプロセスや、各種の大型堆肥プラントの特性比較が紹介されました。

最後に新潟県で長年農業改良普及員を担当された堀井氏から、佐渡における低農薬柿栽培の事例やトキ認証米制度が紹介されました。堀井氏はブランド利用のお返しとしてトキ保護に収益を還元している佐渡の取組みにも触れ、参考にしてほしいと呼びかけました。

研修会の締めくくりとして、明治大学池上教授が、「中国農業が生産過剰時代を迎えている中、今後の農業は品質を高めブランド化を図っていくことがカギになる。」と、また、プロジェクトの雲山短期専門家が、「中国の有機食品消費はまだ一部の層に限られるが、これから需要が拡大することは確実。短期間に全食品が有機に変わるの非現実

的だが、トキブランドを活用し一歩ずつ有機産業を発展させてほしい。」とそれぞれ総括し、日程を終了しました。

総括

今回の研修会には双亜糧油、黒米酒業など洋県有機を代表する企業や有力合作社が参加、洋県政府曹副県長も出席せず午前中一杯聴講するなど、地元関係者の関心の高さが感じられました。研修会の翌日は、講師各位による有機生産企業の参観も実施し、現地企業との交流の機会にもなりました。

今回の取組みは、洋県全体の有機産業支援へのささやかな一歩ではありますが、研修会では消費者の農場体験などいくつかのヒントも浮かんできました。市場の視点も考慮しながら、有機農業支援に引き続き取り組んでいきたいと考えています。



佐渡における柿の減農薬栽培を紹介する堀井氏



パッケージにトキがデザインされた有機米(五彩米)



繁殖羽の「黒い」トキとそれ以外の「白い」トキは別の鳥だと思われていた時代もありました。頭部の皮膚が剥がれ落ちて着色するという仕組みが解明されたのは、1970年になってからのことです。



森チーフから修了証明書を授与された楊さん(左)と孟さん(中央)

インターンシップ研修修了

トキプロジェクトでの職場体験で
充実の2か月間

四季報第7号でお伝えしたように、9月からの2か月間、陝西師範大学で日本語を学んでいる孟曉敏さん、楊苗苗さんの2名がインターンシップ研修生としてプロジェクトに参加しました。普段の学生生活とは異なり、毎日片道1時間以上をかけて事務室に通勤するなど、大変な2か月間だったと思いますが、職場体験をしながら、トキや日本のODAについても学ぶなど、充実した実習に

なったようです。

最後日には森チーフから修了証明書をもらい、二人はとても嬉しそうな様子でした。これから本格的な就職活動に入りますが、インターンシップでの経験を活かして仕事に臨むことができるよう願っています。

プロジェクトでは、今後も西安で日本語を学ぶ大学生のインターンシップを受け入れていく予定です。

秦嶺の自然ギャラリー

Vol.3 キンシコウ



ゴールデンモンキーという別名をもつ、キンシコウ。キンシコウ(金絲猴)という名の通り、金色に輝く毛並みを持つ綺麗なサルです。秦嶺山脈の標高1,500メートル以上の山奥に生息し、トキと並ぶ「秦嶺四宝」であり、国家一級保護動物に指定されています。陝西省珍稀野生動物救護飼育研究センターで飼育されているほか、日本では熊本市動植物園にて見ることができます。

一説では孫悟空のモデルとも言われ、その身軽に木々を飛び回る様子と、ちょっと悪がきっぽい容姿から、三蔵法師と共に天竺までお供した孫悟空によく似ているといえるのかもしれない。

生物多様性条約COP11

生物多様性条約締約国会議に参加しました inハイデラバード



2012年10月にインドの地方都市アーン
ドラ・プラデーシュ州ハイデラバード市
で開催されたCOP11（生物多様性条約
第11回締約国会議）に参加しました。
COP11は、生物多様性の保全目標につ
いて話し合う国際的な会合ですが、今
回は当プロジェクトの広報とともに、希
少種保護や湿地保全など関連する分野
のサイドイベントやブースでの情報収集
を行いました。

サイドイベントでは、2010年に名古屋
で開催されたCOP10にて合意された
「愛知ターゲット」に向け、各ステーク
ホルダがどのように実践していくかと
いった観点で事例の発表が行われたり、
議論がされていました。また、
SATOYAMA イニシアティブについても
活発に議論が行われており、トキが生
息の場とする里山についてもその概念
が浸透しているだけでなく、新たなイノ
ベーションと里山にある古来の文化を

融合させていくことが必要という意見
が出されていました。

また、開催国インドの政府や各NGO
がブース展示を行うインタラクティブ
フェアでは、写真やデザインに富んだ
パネルだけでなく、参加型のイベントを
行うブースもあり、広報や普及啓発の面
で大いに参考となりました。JICA ブー
スでは、当プロジェクトの英語版パンフ
レットのほか、環境教育用教材や広報
ツール、中国語版四季報なども展示し
ました。表紙に中国国画でトキが描か
れたパンフレットは人気が高かった模
様で、持参した100部余りが2日ほどで
ほぼ底をつきました。トキプロジェクト
に興味を持った来訪者には、プロジェク
ト内容や各種広報ツール、絵本等につ
いて解説を行いました。

今後も、当プロジェクトでは国際会議
の場を積極的に活用し、国際広報にも
力を入れていきたいと思います。



工夫を凝らしたブースが数多く並んだインタラクティブフェアの会場



JICAの活動内容を紹介するポスターにはトキも登場



ラオスやブラジルのプロジェクトとともにトキプロジェクトの広報ツールや環境教育教材も展示

会場内に飾られたインドらしい色鮮やかなオブジェ





青龍寺

昨年の春、西安市の郊外にある青龍寺へ始めて行きました。桜が満開で、種類が違うため、色も豊富です。古めかしい寺に、桜が格別に艶かしく見えました。訪れた人々はみな記念写真を撮ったりして、幸せそうな顔をしていました。

青龍寺は中国の仏教の密教の寺院で、西安市の東南部、楽遊原というところにあります。ここで最も有名なのは空海記念堂です。空海は日本から唐にきた有名な留学僧で、帰国後、真言宗を創立した東密の始祖です。このため、日本人にとっても青龍寺は聖寺であり、真言宗の聖地でもあります。



青龍寺では花見をする人だけではなく、線香を立てて祈る人もいます。堂内で赤いリボンを買って、その上に自分の願い事を書いて寺内の木にかけます。周りを見ると、多くの木に赤いリボンがかけられていることに気がつきました。とても目立つ赤い色はまるでお祭りようでもあり、人々の生活の繁栄を象徴しているようです。

ここを訪れる観光客は、桜の美しさに感動するだけでなく、祝福が溢れている祈りに満ちた木々にも魅力を感じることでしょう。

(楊苗苗)

Xi'an Cool
今ここにある西安

西安出身の馬珂さん トキ情報コーナーを訪問!

ミニブログ「微博」(ウェイボー)を通じて、トキプロジェクトを知った馬珂(マカ)さん。九州大学で経済学の修士を取得し、出身地である西安に戻ってきた馬さんは、西安を拠点に活動するこのプロジェクトに興味を持ったとのこと。専門家によるトキについての解説を真剣な表情で聞いていた様子が印象的でした。



i トキ情報コーナーのご案内

🕒 9:00 ~ 17:00
🗓 土曜・日曜・中国の祝日を除く毎日

西安事務室にはトキに関する情報を提供する「トキ情報コーナー」を設置しています。訪問されたい方は事前にご連絡ください。興味ある方のお越しをお待ちしています。

人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト

西安市蓮湖区労働南路296号民航大厦14F 日本側担当者: 平野貴寛
TEL/FAX: +86-(0)29-88793312 中国側担当者: 劉冬平

<http://www.jica.go.jp/project/china/004>



本誌「ひととトキも」に関する皆さまのご意見、ご感想をお聞かせください。

✉ toki.jica@hotmail.co.jp

お断り

本誌は、プロジェクトの近況や情報を率直に読者に伝えることを目的としており、国際協力機構(JICA)の意見を代表するものではありません。